

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670105081		
法人名	医療法人 尚文会		
事業所名	グループホーム 竹山苑		
所在地	鹿児島市郡山町2570-1		
自己評価作成日	平成23年9月20日	評価結果市町村受理日	平成24年1月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	県ホームページより
----------	---------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会
所在地	鹿児島県鹿児島市城山一丁目16番7号
訪問調査日	平成23年10月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

私たちのグループホームは、山や田んぼ等豊かな自然に囲まれているので、利用者や来苑者に「昔懐かしい景色でほっとする。」と、言っていたいいます。利用者には、季節の移り変わりを肌で感じながら、のんびり過ごしていただけるように、職員は、アットホームな雰囲気づくりに努めています。特に、近くの田んぼでの田植えや稲刈りを間近に見られたり、散歩の時は季節の花を摘んだりして楽しんでいます。開所して5年を経過し、運営推進会議の成果で自治会に加入させていただき、少しずつ地域の方々にも竹山苑の存在を知っていただけて交流ができるようになりました。又、家族の方々にも家族会を通じて、行事等もっと自主的な活動につなげていただくようお願いしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

山や田んぼに囲まれた自然豊かな場所で四季の移り変わりを肌身に感じながら、のんびりと過ごすことができる開設5年目を迎えるホームである。職員は、「あなたの笑顔が絶えないように」を理念に掲げ、家庭的な雰囲気を常に目指している。苑における行事では、季節にあった多くの手料理を振る舞い、家族との交流の場として大切に考えている。帰宅途中の小学生がホームのトイレを借りたり、物を拾ってくれたりとのほのほのとした風景も見られる。ホームは、自治会を通じ、地域との交流を少しずつ深めていきたいと奮闘している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域の中でのグループホームのあり方を探り、自分たちで作りあげた理念のもと、機会ある毎に職員間で確認しあって、実践につなげている。	「家族や地域のふれあい」「あなたの笑顔」などの言葉を含んだ理念をホールや玄関に掲示しており、職員はしっかりと理解している。各ユニットの職員会議や全体会議時に、理念を共有し実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している	地域の自治会へ加入させていただき、地域活動への参加がスムーズになった。地域の行事に参加して交流を図り、日常的な買物、散髪、病院等も地域の施設を利用するように努めている。	ホームは、敬老会や児童館での学生との交流、職員による地元の清掃活動の参加や中学生の職場体験の受け入れをするなど地域とのつながりが増えてきている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職員は、地域の会合、研修に参加し、認知症への理解やケアの啓発に努めている。又、中学生の体験学習や、実習生・ボランティアの受け入れを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域、行政、民生委員、家族代表の方に連絡をとり、運営推進会議を開催し、苑の活動状況報告や、話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	会議は、2ヶ月毎開催され、はがきで参加者へ知らせている。ホームの活動報告や精神症状への対応と転倒についての勉強会、意見交換等が行われている。ホームは、職員が名札を身につけるなどサービス向上に繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議等、地域包括センター職員に出席していただき、アドバイスをいただいているほか、地域への広報にも協力いただいている。	ホームは、市担当者や地域包括支援センターへ苑便りの配布や防災についての勉強会などに参加し、協働してサービス向上に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表者及び全ての職員は、カンファレンスや日々の申し送りで、お互い確認しあっている。特に玄関や居室に鍵をかけないケアに努めている。常に利用者の安全を考え、その事に伴うリスクについては家族と相談するようにしている。	代表者や職員は、マニュアルを基に身体拘束についての研修をしている。ホームは、カンファレンスや日々の申し送り時に利用者を車椅子に固定しないなど再認識し、日々のケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底			

鹿児島県 グループホーム竹山苑

内 部	外 部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者や職員は、高齢者虐待防止に関する研修に参加するほか、勉強会やカンファレンスを実施し、虐待に関心を持ち、日々の介護の中では虐待防止に努めている。		

自己評価	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や職員は、成年後見制度等の研修に参加し、学んだ事は資料をもとに職員への理解を深めるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、契約内容について可能な限り説明をしている。又、利用者様の状況によりやむをえず解約に至る場合には、誠意をもって説明し話し合い納得いただけるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族が、運営推進委員会や家族会、アンケート、面会時に出された御意見、御要望をその後の運営に活かすように努めている。	ホームは、年2回の家族会やアンケート調査、面会時などに要望を聞いている。家族アンケート調査結果について話し合い、各利用者の担当職員が洗濯物を管理するなど運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員のミーティングの機会を通じて、意見、要望を聞くように努めている。又、個別にも話を聞く機会を設けているが、あまり反映されていない面もある。	管理者は、月1回のミーティングや年2回の個人面談時に職員の意見を聞ける場を設けている。職員の休息室を設置するなど運営やケアに反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、管理者や職員が意欲を持って仕事に取り組めるよう職場環境や条件の整備に努めている。又、年2回の人事考課を行い、資格取得の支援等、向上心を持って働けるよう工夫している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、管理者や職員のケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修参加を積極的にすすめている。又、カンファ等を通じて他職員の資質向上を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加入し、研修、勉強会、親睦会に積極的に参加している。今後は、相互訪問等をすすめて更なる向上を目指す。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で、御本人の希望や生活歴、生活状況を把握し、不安を取り除くように努めている。又、家族と相談しつつ、新しい環境に慣れていただくための配慮を心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面談の時に、家族としての希望や、これまでの経緯を充分聞くようにしている。又、入所されてからも、状況に応じて相談し信頼関係を築くよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、御本人や御家族の思い、状況を把握して、今必要なサービスにつなげるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	全ての職員は、利用者様が人生の先輩であるという考えを共有し、教えていただくことが多い。又、日常生活の中で、できることは一緒にいき、お互い学びあえる機会としている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、機会ある毎に、利用者の状況や思いを伝えて、家族と相談しながら御本人を支えていくようお互い協力しあっている。又、担当職員から月1回家族へお便りをさしあげ、絆を深めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方の面会をはじめとして、自宅、実家への帰省、墓参り等機会を捉えて家族にお願いしている。又、事業所でも本人の願いが叶うように、様々な形で応援している。	ホームは、親戚宅への同行訪問やドライブなど個別に応じて支援している。一泊旅行や墓参りなど家族との時間が持てるように働きかけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活の中で、利用者同士自由に会話できるようにしている。又、行事やレクリエーション等でコミュニケーションを図り、お互い理解しあえるよう援助している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了されてからも御本人、御家族共に関係を持ち続けられるよう、相談や支援をしている。又、他の事業所へ移られた場合でも、情報提供すると共に機会を作って訪問するようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、本人の話を聞き、思いを把握し、希望が叶うよう努力している。本人にとって、どこで誰とどの様に暮らすのが最良なのかを家族を交えて検討している。	職員は、レクリエーション時や昼食後などに本人の希望や思いを把握し、本人の意向を尊重した支援が出来るように努めている。担当職員が毎月、家族宛てに利用者の生活状況報告や利用者の一言を添え思いを伝えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に、御本人、御家族から聞き取りを行い、これまでの生活状況の把握に努めている。又、入所前の事業所、病院からも情報をいただいて、苑でのサービスにつなげている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は、日々の申し送り等情報交換の中で、生活リズム、心身状態、残存能力を理解しつつ支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者が、笑顔で自分らしく暮らせるように、御本人、御家族の要望を聞き、職員間でカンファレンスを行っている。それをもとに、サービス計画を作成している。	プラン作成時は、利用者や家族に聞き取りをしている。モニタリングは、毎月職員が行っている。変更が必要な場合は、現状に即した新しい介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様の日々の状況変化や、職員の気づき、工夫を、個人ケース記録に記載している。その情報を共有しながら実践やサービス計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状況に応じて、受診、リハビリ、整髪の送迎を行っている。又、必要に応じて、訪問マッサージ、往診、移動美容室等のサービスも受けていただいている。		

鹿児島県 グループホーム竹山苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議等を通じて自治会長、民生委員との意見交換を図り、地域との接点を見出し、周辺施設(消防、警察、市役所、小・中学校、自治会)への働きかけを行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は、本人、家族が希望するかかりつけ医になっている。又、かかりつけ医に連絡をとり、相談しながら対応している。家族や職員と通院したり、訪問診療を受けているケースもある。	利用者や家族の希望するかかりつけ医になっている。受診結果については、病院・家族・ホームの連携は、取れている。必要に応じて、往診や職員が病院まで連れて行き、家族と合流するなどの対応をとっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職を配置しており、介護職は、そのつど看護職の情報を得て、日常の健康管理や受診につなげている。又、受診時かかりつけ医の看護職からも情報を得ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、介護サマリーを医療機関へ提供し、職員が見舞うようにしている。入院中は、家族や病院関係者と連携をとりながら、早期の退院につなげている。又、退院時には、看護サマリーの提供を受け、その後の支援を続けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアの研修を受け、終末期のあり方について勉強しながら苑としての取り組みを検討している。入所時、苑でできる事を説明し、理解を求めている。現在は、そのつど家族や医師と連携しながら対応している。	重度化や終末期に対するホームでの対応について、話し合いが持たれているが、具体的に方向性が見えていない現状にある。事例はないが、現段階では、入居継続について家族や医師の判断を踏まえ、対応している。	再度、重度化や終末期に向けた方針について、ホーム内での考えをまとめ、主治医とも連携体制を確立することを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署に依頼して、応急手当、救急避難訓練、消防訓練を行っている。又、緊急時対応についてマニュアルを作成し、勉強会でも取り上げている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策のマニュアルを作成し、年2回利用者と共に避難訓練、消防訓練を行っている。又、地域の防災会議に参加して情報を得ると共に、運営推進委員を通じて地域への協力をお願いしている。	年2回、消防署立ち合いで避難・消防訓練をしている。ホームは、2ヶ月毎に避難訓練についての話し合いや自治会長を通じ、近隣者へ訓練参加を呼び掛けている。備蓄については、検討中である。	備蓄の確保や近隣住民の参加が出来ることで災害時の役割分担を明確にし、取り組むことを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は、一人一人の人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応を心がけて支援している。又、カンファ等で、高齢者介護の尊厳についてお互い話しあっている。	職員は、プライバシーについての研修をしている。月1回の職員会議やカンファレンス時に、トイレ介助やオムツ交換時などのプライバシーを損ねない声掛けや接し方について話し合い対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は、日常生活の中で、本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように、いくつかの選択肢を提案するように心がけて支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は、日々の申し送り等情報交換の中で、利用者の生活リズム、心身状態、残存能力を理解し、その日をどの様に過ごしたいか、できるだけ希望にそって支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日常生活の中で、その人らしい服装や身だしなみ、おしゃれが出来るよう声かけし支援している。整髪は、本人や家族と相談して決めている。又、誕生会や行事の時は、お化粧していただき喜ばれている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立に利用者の好みのものを取り入れると共に、メニューを掲示し、一緒に出来る下ごしらえ、調理、嚥下体操、挨拶等は積極的に参加していただいている。又、行事食、外食も取り入れている。	職員が1ヶ月交代で献立を作成し、七草・ソーメン流し・ひな祭りなどの季節に合わせた多くのメニューを提供している。弁当持参で花見に出掛けたり、誕生日には家族とホームで食事をして頂くなど食事を楽しむ工夫が出来ている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	高齢者に合う、栄養バランスのとれた食事をさしあげ、一人一人の体調と、食事や水分の摂取量を毎日把握している。好みのおやつや飲み物を用意したり、飲み込みが悪い方には、おかゆやきざみ食にしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声かけを行い、その人に応じたケアの支援をしている。また、週1回コップ、歯ブラシ、義歯等の消毒をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	毎日排泄のチェックを行い、排泄の時間や習慣を把握し、声かけしてトイレでの排泄を目指し支援している。紙パンツから布パンツへの切り替えも、本人の状態に合わせて検討している。	個々の排泄パターンを把握し、トイレでの排泄が出来るように取り組んでいる。排泄の自立支援に向けて、紙パンツから布パンツへの変換を実施している利用者もあり、介護計画書され、排泄パターンに応じた支援がなされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事やおやつに、食物繊維の食材やヨーグルトを取り入れたり、朝食前の水分補給(牛乳)、オリゴ糖使用して自然排便を促すようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の状態や希望に添って入浴しているが、時間帯は決めてある。その日、入浴されない方は、清拭や足浴で対応している。その他、尿、便失禁時は、随時シャワー浴を実施している。	入浴は、日曜日以外の午後を予定しているが、利用者の体調や希望に添って柔軟に実施している。希望があれば、毎日の入浴を実施している人もいる。入浴出来ない日は、足浴時に竹酢を使用するなどの工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は、体操、レクリエーションや散歩等からだを動かすことで生活リズムを整えるように努めている。又、体調や表情を観察し、ゆっくり休んでいただけるよう支援している。安眠のための薬を差し上げている方もある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師からの処方箋を整理し、職員が内容を把握できるようにしている。又、処方の変更があった時は、ボードに掲示し、申し送りで伝え、様子観察し記録している。職員は、利用者の症状をお互い確認し合いながら支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の能力に合った仕事をお願いしたり、役割、楽しみを探す努力をしている。また、レクリエーション、ドライブ、散歩、買物等気晴らし出来るように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の気分や状態に応じて、散歩、ドライブ、買物に出かけている。又、地域への行事への参加や家族との交流(帰省、墓参り等)を積極的に勧めている。	天気に合わせて、近隣を散歩したり、玄関先でお茶をするなど外気に触れる支援をしている。ホームは、花見やドライブ、運動会や文化祭などの地域行事へ参加や家族支援についても呼び掛けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員は、本人がお金を持つ事の大切さを理解しており、ご家族と相談しながら、利用者の希望に合わせてお金を所持したり、使えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望時、不穏時等、いつでも家族や大切な方に、電話して声を聞き安心していただいている。又、手紙やはがきのやり取りの支援や、月1回、担当者から家族へのお便りの中では、本人の思いを代弁するような形でお伝えしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は、落ち着いて過ごせるように、家具の配置等常に気配りしている。又、玄関やフロアには、季節の花を飾り、壁面も工夫している。特に、皆さんが集うフロアの室温管理には充分配慮している。	ホール内は、天窓からの光で明るい陽射しがさしている。壁には、敬老会の写真やちぎり絵、献立表などが飾られている。ホームは、利用者の状況に合わせて、ソファやテーブル等の配置をしており、利用者がそれぞれ落ち着ける場所でくつろげるよう工夫がみられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	皆さんで過ごすフロアではあるが、テーブル、ソファとそれぞれの気分で生活していただけよう工夫している。又、中庭やポーチでもくつろいで頂けるようベンチをおいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	安心して過ごして頂けるように、家族の写真、家具、なじみの物を持ってきて頂いている。又、各担当者は居心地良く過ごして頂けるように、整理整頓に努めている。	家族への呼びかけにより、テレビやテーブル、家族写真など慣れ親しんできた物を持ち込んでいる。毎朝、利用者の各担当者が居室の清掃をし、美化に努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状態に合わせた環境作りに努めているが、居室をはじめ、共有空間等居住環境が適しているか、常に観察し、見直し工夫している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

No.	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の中でその人らしく暮らしていけるように、スタッフみんなで分かり易い理念を作り、玄関、居間の分かり易いところに掲示し会議の時に理念を確認し職員が共有し、ケアに取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の文化祭、自治会に参加したり、小学校、保育園との交流に努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学生などの職業体験や、外部から来られた方などに認知症についてのお話をさせていただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の中で、ホームの現状の報告と共に、取り組んでいる項目についての意見や要望をいただきサービスにつなげている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市担当の方とは手続き時に情報をいただき、毎月の苑便りを送るなどし、相談やアドバイスをうけ協力関係を築いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての勉強会を行ない、拘束をしない工夫についての話し合いを行なっている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会やミーティング等で高齢者虐待についてとりあげ正しく理解し防止している。		

項目	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	機会あるごとに職員に説明をおこなっている。必要ある利用者がおられるときは、職員全員で話し合う。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、事業所のケアに関する考え方や取り組みに対処を含めた事業所の対応可能な範囲について説明を行なっている。面会時や家族会時にも疑問点などをお尋ねし、その都度納得いただけるよう説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を置くと共に、ご家族へ無記名のアンケートを送り、意見をお聞きしている。内容について職員のカンファレンスにて話し合っている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度カンファレンスを行い意見交換をおこなっている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が向上心をもって働けるように能力評価を行っている。職員の資格取得に向けた支援をおこなっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間におこなわれる外部研修の情報を収集し職員の段階に応じてなるべく多くの職員が受講できるように計画を立てている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加入し交流を深めたり、勉強会に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で本人の生活状態を把握するように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が求めているものを理解し、事業所としてどのように対応できるか話し合っておく。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人やご家族の思い、状況等を確認し、相談を繰り返し行なっていく。より多くの対応を設定する。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が安心して過していただく為に、本人の意志を尊重しつつ職員の仕事のお手伝いをしていただいたり、得意分野を発揮してもらう工夫をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常の会話の中から、本人の思いや根本にある苦しみ、不安、喜びを知ること努めている。又人生の先輩である利用者より教えていただく機会をつくっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまで使っておられた、馴染みの美容院、病院を利用していただいている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士、会話をする環境や時間をもうけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所に移られた場合、支援状況を渡すと共に、情報交換を行い、機会を作り訪問に行くなどしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の係わり合いの中で、声を掛け把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用時にご本人ご家族、関係者から聞きとるようにしている。入所されてからも昔のお話をさせていただきようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者ひとり一人の生活のリズムを把握し、行動や細かい動作から感じ取り記録をしている。朝、夕の申し送りを行い、出勤職員全員が把握できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人や、ご家族には日ごろの係わり合いのなかで、思いや意見を聞き反映させるようにしている。職員全員でカンファレンス意見交換をし、介護計画の作成に活かしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員の気づきや利用者の状態の変化は、個々のケア記録に記載し、又体調変化の情報を見やすい所に掲げ情報共有を徹底している。個別記録を基に介護計画の見直し、評価を実施している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人や家族のその時に応じ、柔軟な支援やサービスができるように心がけている。		

自己評価	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域で行なわれる、行事や文化祭に参加している。市町村からの情報も家族の方々に提供している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人や家族の希望するかかりつけ医となっている。ご家族の状況に応じ家族が受診されたり、職員が受診の付き添いをおこなっている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関の看護師や、施設内の看護師と連携を取りながら日常の健康管理や医療活用の支援をおこなっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院された時は、介護サマリーなど提出したり、詳しい情報の提供をおこなっている。入院された時は、定期的に入院先を訪問し、家族と共に回復状況等情報交換をしながら、すみやかな退院支援に結びつけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方については、ご本人、ご家族、かかりつけ医と話し合い、必要に応じては書面にて同意をいただき、全員で方針を共有している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急法の研修を行ったり、普通救命講習の受講を計画、実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急通報システムを整備し、昼夜を問わず、非難できるよう、2ヶ月に1度、災害についての話し合い、避難訓練を実施している。		

目 次	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格を尊重し、誇りやプライバシーをそこねない言葉や声掛けの研修を実施している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	結論を急がすような言葉掛けをさけ、常に傾聴の姿勢で支援している。個々に合わせた理解できる言葉で説明をおこなっている。又傾聴について勉強し、ロールプレイをおこなっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースを大切に、それに合わせた対応を心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の意向を聞きながら、更衣など行なうようにしている、理容、美容に関しても本人の意向をきいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の好みを聞いたり、職員と買い物に行き好みの物を選んでもらう日をもうけている。利用者の状況に応じ一緒に片付けを行なっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量の把握を行い、水分を取りにくい方には工夫して飲んでいただいている。好きな飲料水の購入をし飲んでいただいている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの支援を行い、週に一度のポリドントを実施している。必要に応じ歯科受診を行なっている。		

項目	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	御利用者の排泄パターンを把握し、オムツ、紙パンツの使用をへらし、布パンツに変え、気持ちの良い毎日を過ごしていただくよう工夫をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎食の食材に繊維を含んだ野菜を使用し、又、水分を取っていただくようにし、散歩など運動を行い困難な場合は、腹部マッサージ、オリゴ糖を服用していただいている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	施設では時間帯、曜日を決めて入浴していただいているが、状況に応じては、一人ひとりの希望、タイミングにより入浴していただいている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣や体調にあわせ休息したり休んで頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された投薬の説明書は綴り、いつでも確認できるようにし、処方箋以外でも薬の本を準備しており副作用や服用するうえでの注意事項等を理解しながら、服薬の支援と状態の変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々のケアの中から、得意な分野を見つけたり、出来る事をお願いしたりと生きる張り合いのある日々を過ごしていただく努力をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常スタッフとの会話の中から本人の希望をすくいだしドライブ、お見舞い、散髪、自治会参加と出かけている。又家族と共に桜の花見など出かける機会がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持は本人の認知の状況に応じ家族と話し合い、使うことの支援は一緒に買い物に出かけほしいものを選び買っていただく工夫をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話も取り次ぎお話をされている。苑からも電話をかけお話しする機会をもっている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者みんなで過されるテレビ前のソファは、いつでも庭の草花が観賞でき、四季を感じていただく場所になっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関入り口や、窓辺に一人で過せる場所をつくっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の家具は、御家族と相談し使い慣れたもの、ご本人に違和感の無いものをおいている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の身体状況に合わせ、安全に自分でできる環境づくりを行なっている。		